



## 東地中海地域ニュース

### イラン情勢(8)：西側諸国への反発強める政府

研究員 山崎 和美

6月20～23日情勢

国内の情勢  
海外の反応

#### 国内の情勢

##### 革命防衛隊およびバシージの動向；徹底鎮圧の構え

革命防衛隊は22日、「現在の微妙な状況において、革命防衛隊は暴徒や法を犯す者に革命的な方法で断固対抗する」という声明をウェブサイトに掲載した。今回の騒乱で革命防衛隊がこうした声明を出すのははじめてであり、体制側は反大統領デモの鎮圧に向けた強い決意を鮮明にした、といえる。イラン当局は、欧米などが改革派を支援していると批判し、一部欧州の大使を国外退去させる可能性を排除していない。

イラン国営テレビによると、上記声明掲載の数時間後、改革派候補ムーサヴィー元首相の支持者たち約1000人がテヘラン中心部のハフテ・ティール広場に集結したが、警官隊や保守派の民兵組織バシージからなる治安部隊により強制排除された。20日死亡したネダーさんという女性の衝撃的な映像がネット上で流れており、この日は彼女の死を悼むためにデモが呼びかけられたとの情報もある。ムーサヴィー氏のウェブサイトはデモを連日開催するよう訴えている。

さらに米CNNは、改革派の抗議デモにイスラーム法学者のグループが新たに加わったことが、現場で撮影された写真により23日明らかになった、と報道した。

##### 護憲評議会の見解；選挙見直し却下

政府系の国営プレスTVが23日伝えたところによると、護憲評議会は、12日に実施された大統領選に関し、不正行為があったとして敗れた改革派の2人の候補から出されていた選挙のやり直し要求を却下した。

##### イラン国会司法委員長の発言；ムーサヴィー氏を批判

ファールス通信によると、イラン国会のシャーロヒー司法委員会委員長は22日、改革派候補ムーサヴィー元首相を「違法な抗議行動と、挑発的な声明を公表」したとして訴追すべきだと批判した。

##### 大統領就任式典の時期決定；反発回避のためか？

国営イラン通信は23日、アフマディーネジャード大統領の就任式典が7月26日から8月19日までの間に実施される、と報じた。同国議会の発表としている。就任後、新閣僚名簿を発表する見通しである。米CNNは、大統領2期目の開始時期を発表することで内外の反発を封殺する狙いがあるようだ、と見ている。

## 大統領選の承認期限延期

イラン国営テレビによると、最高指導者ハーメネイー師は 23 日、護憲評議会に対し、選挙結果の承認期限を 5 日間延期することを認めた。大統領選結果を最終的に承認する権限を持つ同評議会は、通常の手続きによれば、大統領選の結果 24 日までに承認するはずだった。イラン学生通信(ISNA)によると、選挙に不正があったとする改革派のムーサヴィー元首相らの訴えを受けた護憲評議会のジャンナティー議長は「(選挙結果に)いかなるあいまいさも残さないため」として、ハーメネイー師に承認期限延期を求める書簡を出していた。

## イラン、G8 外相会合への招待を辞退

伊フラッティーニ外相は 22 日、国内のテレビに対し、イランを G8 外相会議に招待し 22 日までに参加の意思について回答を求めていることを明らかにした上で、「返答がないため、イランは招待を辞退したと考えなければならない。イランは不参加によってよい機会を逸した」と語った。G8 外相会合は、トリエステにおいて 25 日から 3 日間行われ、イランと国境を接するアフガニスタンの安定強化策などについて協議される予定である。

## イラン国会、対英関係見直しを要求；英に対する反発強める

プレス TV は 22 日、ラーリージャーニー国会議長が国家安全保障外交委員会に、外務省に対英関係の見直しを要求する文書を提出したと伝えた。イラン国会は、英国が大統領選挙後の騒乱に関与したとしている。

イランのモッタキー外相は 21 日、英国が 1 年以上前から計画的に大統領選挙に干渉したと非難していた。同外相はさらに、19 世紀に創始され、現在イラン当局が禁止しているバハーイー教の信者を英国が支援していると主張した。

複数の国内メディアが 23 日、国会議員の話として伝えるところによると、イラン政府は駐英イラン大使を一時的に召還する事を決定した。22 日、議会の安全保障・外交政策委員会とモッタキー外相による会合が行われ、これに関してマフムード・アーマディー議員が語った。「イラン国内問題に対する英国の介入について報告・説明を受けるため」だという。

## 海外の反応

### 英国の対応；対抗措置

イラン政府による英国批判に対してミリバンド英外相は、モッタキー外相が内政問題を外交問題にすり替えようとしていると主張し、抗議デモに参加している人々が外国に操作されているとしたイラン側の見解を受け入れないと明言した。英当局は先週、最高指導者ハーメネイー師が英国、米国、イスラエルの 3 カ国を選挙介入などで批判したことを受け、駐英イラン大使を呼んで説明を求めている。

英外務省は 22 日、イラン駐在大使館職員の家族を情勢が改善するまで退避させる方針を表明した。英外務省はウェブサイトで、イランへの不要不急の渡航を延期するよう勧告した。ブラウン英首相は 23 日、イラン政府が 22 日に英外交官 2 人を国外退去処分にしたと明らかにし、報復措置として、駐英イラン外交官 2 人の国外退去をイラン側に通告したと発表した。

### 国連事務総長の発言；武力行使を批判

国連の潘基文事務総長は 22 日、大統領戦後の混乱が続くイラン情勢に関して、報道官を通じ

声明を出し、「大統領選後の暴力、とりわけ市民に対する武力行使に失望している」と表明した。その上でイラン政府に対し、市民の基本的権利の尊重を求め、逮捕や実力行使を直ちにやめるよう訴えた。当局による強圧策の結果、市民の間に死者や負傷者が出ているとの認識を示し、「表現・集会・情報の自由をはじめとする基本的な市民的・政治的権利を尊重するようイラン当局に求める」と述べた。また、イラン情勢は「国際社会の懸念の対象だ」と指摘した。

### **オバマ米大統領の発言；内政干渉を否定**

同大統領は 20 日、イラン情勢について声明を発表し、イラン政府に対してデモ参加者たちに対する暴力行為を停止するよう求めた。状況を「世界が注視」しており、「米国は(集会や言論の自由の)権利を追求するすべての者と共にある」、「イラン政府が国際社会を尊重しようとするなら、自国民の尊厳を重んじ、威圧ではなく合意を通じて統治すべきだ」などと訴えた。混乱発生以来、最も強い調子で自制を促した形だが、イラン指導部を直接批判する言葉は避けている。米紙ワシントン・ポスト(電子版)によると、基本的には「不干涉」を貫くことで固まっている、という。

オバマ米大統領は 23 日、ホワイトハウスで記者会見し、イラン大統領選の結果に抗議するデモをイラン当局が制圧したことについて、「不当な行為を強く非難する」と従来よりも厳しい調子で批判した。欧米諸国が選挙結果に内政干渉しているとのイラン当局の反発についても非難した。

### **元皇太子の発言；民主化要求**

イランのパフラヴィー元国王の息子レザー・パフラヴィー元皇太子が 22 日、ワシントンの全米記者クラブで講演を行った。同氏は 1979 年から亡命生活を送っており、現在は家族と共に米国に住んでいる。イランの現政権に対する連帯を呼びかけ、大統領選の結果に異議を申し立てる改革派の運動が成功するためには、国際社会の支持が必要不可欠だと訴えた。その上で、抗議行動が鎮圧された場合、中東のイスラーム過激派を増長させ、核によるテロが起きる恐れもあると警告した。

米 CNN によると、同氏はイラン上層部から入手した情報として、イランの治安部隊が政権から距離を置き始めていると発言した。勤務を終えて帰宅した治安要員が私服に着替えて抗議デモに参加していることを明らかにし、「治安部隊や革命防衛隊の内部で、多数の要員が不満を漏らしている。驚くべき兆候が現れており、重大な動きだ」と述べた。

同氏は「外国メディアは既にイラン各地の自由運動を結び付ける情報の大動脈になっている」と指摘した。情報を入手できなくなれば民主派は孤立すると述べ、外国メディアが引き続きイランの抗議行動に関心を持って報道するよう求めた。同氏は、テヘランなど大都市だけでなく、小さな町でも抗議デモが起きており、武力鎮圧が行われているとした。

さらに、イランの内政問題に外国が干渉することに否定的見解を示したオバマ米大統領の発言を評価する一方、人権および民主主義の原則のために立ち上がることは内政干渉とは別であり、効果的かつ重要だとして、歓迎する意向を表明し、「それこそイラン国民が、オバマ大統領のような世界各国の指導者に求めているものだ」と述べた。

### **海外での抗議活動**

パリ郊外で 20 日、数万人が参加するデモと集会が行われた。仏に本拠を置くイラン抵抗国民評議会(NCRI)が主催したもので、ドイツ、オランダなどの欧州各地から在欧イラン人や支持者を

動員し、「イランは宗教的独裁をやめるべきだ」と訴えた。NCRI は国外在住の反体制派イラン人で構成されており、その主要組織の一つについては、最近欧州連合(EU)が「テロリスト集団」という認定を解除したばかりである。NCRI は同日の参加者を 9 万人としている。

これとは別に同日、ブリュッセルのイラン大使館付近でも 1000 人規模の抗議デモが行われ、ベルギーの政治家も参加した。

ワシントンでは 21 日、ムサヴィー元首相のシンボルカラーである緑を身につけた在米イラン人と支援者約 300 人がホワイトハウス前に集まり「イランに自由を」「民主化に支援を」などと書かれたプラカードを掲げ、オバマ大統領に支援を訴えた。

### **国境なき記者団の主張；メディア関係者の逮捕**

国際ジャーナリスト組織「国境なき記者団」(本部パリ)は 21 日、イラン大統領選後に逮捕された同国内のメディア関係者は確認されただけで 33 人に上ると発表した。33 人の内訳は、ジャーナリスト 23 人と反体制派のウェブサイト関係者 10 人である。

### **米インターネット各社の動向**

イラン改革派のムサヴィー元首相支持派が街頭デモを組織する際にインターネットを駆使していることから、米インターネット検索大手グーグルをはじめとする各社は 22 日までに、ペルシャ語サービスの開始などイラン市民の利便性向上策を相次いで打ち出した。グーグルは翻訳サービスにイランの公用語であるペルシャ語を急ぎ追加し、フェイスブックもペルシャ語版を立ち上げた。ユーチューブを傘下に置くグーグルは、過激な暴力描写を削除対象とする方針をイランのデモに限り変更し、視聴できる措置を取った。

元首相支持派は 140 字以内でリアルタイムに近い情報交換ができるネットサービス「トゥイッター」を使い、デモを計画している。フェイスブックやユーチューブには映像が次々と投稿されている。

20 日、車に乗っていた 26 歳の女性ネダー・アーガーソルターンさんは、デモ現場付近に遭遇し交通渋滞に巻き込まれた。暑かったためにたまたま車から降りたところ、バスイージが撃ったと思われる銃弾を胸に受け、絶命した。彼女の映像はインターネット上に流れ、「イランの天使」として象徴的存在になっている。

今年はイラン革命 30 年という記念すべき年である。30 年前、シャー(国王)が掌握する治安部隊は罪もなき市民たちの命を奪った。国家によるそうした行為に抗議する民衆のデモが、ホメイニー師によるイスラーム革命へとつながった。ホメイニー師が亡くなった時には、彼の死を悼む民衆が押し寄せた。今回の騒乱でも、国家による銃弾で多くの市民の命が奪われた。こうした事実は、一生拭いきれない胸を引き裂くような痛みとして、人々の心の中に刻み込まれたことだろう。今後イランが向かう方向性に関しては幾つかの可能性があり流動的で全く予見できないが、これ以上人々の命が奪われないことを切に願う。

---

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799